

野研びより

昆虫編 10号

野外生物生態調査研究部 昆虫班

2017年11月



図一. オオカマキリ 2017年
11月 1日宮崎大学木花キャン
パス教育学部講義棟手前

オオカマキリ（大螳螂） *Tenodera aridifolia*

カマキリ目 カマキリ科

体長：オス 68~92mm メス 77~95mm

分布：北海道、本州、四国、九州、対馬

時期：成虫8月~10月

日本の最大級のカマキリである。全体的に緑系の体色個体が多いが、茶系統の体色を持つ個体も存在する¹⁾。胸部の前脚（鎌脚）の付け根部分に黄色い点があるのが特徴である。本種は日当たりのいい環境を好むため、主な活動は昼間に行われる。生息地域は主に草地であり、河原の高い草にも多く生息している。最近、宮崎大学では全面的に草刈りや草むしりを行われているため、普段は草の中に隠れているオオカマキリの多くが居場所を追われ、出てきたところを踏まれてしまった成虫が数多く発見されている。左の写真も、踏まれてしまい、死にかけている個体を撮影したものである。

【黒い目】



夜間に活動する際、目が黒く変色する。これはより光を多く取り込むためであり、ネコの瞳孔の変化に近い¹⁾。

図二. 捕まえたオオカマキリが夜になると目が黒くなっている様子
2017年9月29日西米良村双子キャンプ村

【体長、捕食】

体長はオス 68~92mm メス 77~95mm で、南方へ行くほど大型化する傾向が強く、九州産の個体は大きい。時にはオスでもメスに負けない体長と大きさになることがある¹⁾。

捕食対象はアゲハチョウやセミ、キリギリス、トノサマバッタ、トンボなどの大型昆虫から、時にアマガエルやトカゲまで捕食し、スズメ等の小型鳥類、ネズミ等の小型哺乳類さえも仕留めた記録がある。

参考文献

- 1) ウィキペディアフリー百科事典 オオカマキリ

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%82%AA%E3%82%AB%E3%83%9E%E3%82%AD%E3%83%AA>